

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 49 2015年11月28日

目 次

会長より	1	臨床こぼれ話	7
学術局より	2	きこえのひとくちコラム	8
介護保険委員会主催研修会報告	3	各委員会・作業部会から	9
リハビリテーション公開講座報告	4	事務局より	10
県士会リーフレット増刷	5	理事会・委員会等議事録	12
施設紹介	6		

◇ 会長より ◇

＊＊地域のニーズや課題に応えられる言語聴覚士になろう！＊＊

会長 吉田 浩滋

11月7日、平成27年度都道府県士会会長会議が都内で開催されました。実はこの会長会議は、日本言語聴覚士協会（以下、協会）が代議員制度への移行後に初開催されたもので、これまで継続されてきた「都道府県士会協議会」から名称を変え、協会の活動方針や運動の進め方に対して、各県が意見を述べ、協会と対話する場として新たに設置されたものです。

平成28年度診療報酬改定に関する要望書の提出がなされた等の報告の後、質疑応答が行われました。なかでも最も多くの時間を使い、尚且つ活発な質疑応答が行われたのは、「地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業」でした。この事業は、地域における介護予防の取り組みを機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進するもので、具体的には、それぞれの場所にリハ職が出向き、介護職員等への助言を行ったり、地域ケア会議に定期的に参加し、個々人の介護予防ケアマネジメント力の向上に資する助言等を行ったりするもので、大分県を始めとする複数の県で実施されています。

そのような状況のもと、協会は、「このような支援活動が行える言語聴覚士の養成に力を入れるので、各県士会も協力してください」というのが訴えでした。そのためには、さまざまな場で活躍できる言語聴覚士を養成しなければならないため、今回の会長会議では、各県士会での人材養成のための研修会開催が協会から要請されました。

これに対して正直に言えば、県士会活動としてオーバーワークになってしまうから難しい、というのが素直なホンネです。しかし、言語聴覚士の社会的使命を考えると、わがままも言っておれません。そこで、出来るだけ早い時期に千葉県士会としての独自研修を一日開催するための準備を開始いたしました。内容が決定次第、HPに案内を掲載いたします。ただし、この研修の受講者は日本言語聴覚士協会の会員で、かつ都道府県士会の会員であること等の条件がありますので、ご注意ください。



◇ 学術局より ◇

学術局 酒井 譲

1. 平成27年度第2回研修会のお知らせ

摂食嚥下障害の症例検討会を開催いたします。講師に聖隷佐倉市民病院の津田豪太先生をお招きし、症例へのご助言や「チームで対応する嚥下治療」という内容でのご講演をいただきます。症例検討会後には、皆様の日々の臨床上の疑問点などを相談し合い、よりよい方法を模索するための情報交換会も行います。会員の皆様はもちろん、会員外の方もお誘いあわせの上、お申込み下さい。

* 日時：平成28年1月24日（日） 13時00分～16時30分

* 会場：順天堂大学医学部附属浦安病院 外来棟3階講堂

* 内容

I. 症例検討会 [13:00～14:00]

①「食べるために胃瘻造設を決意した症例～胃瘻と倫理を考えて～」

発表者：袖ヶ浦さつき台病院

言語聴覚士 齋藤 久美子 先生

②「廃用性嚥下障害に対して多職種で関わることで

3食経管栄養法から3食経口自力摂取が可能となった症例」

発表者：船橋市立リハビリテーション病院

言語聴覚士 小松 夏希 先生

II. 助言・講演 [14:15～15:45]

「チームで対応する嚥下治療」

講師：社会福祉法人聖隷福祉事業団

聖隷佐倉市民病院耳鼻咽喉科部長 津田 豪太 先生

III. 情報交換会 [16:00～16:30]

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 日本言語聴覚士協会平成27年度第2回全国研修会報告

平成27年7月26日（日）に千葉市文化センターにおいて、日本言語聴覚士協会第2回全国研修会を開催いたしました。研修会の概要を以下に紹介いたします。

研修会の概要

専門講座1：「運動学習から考える嚥下訓練」

講師：藤田保健衛生大学リハビリテーション学科

稲本 陽子 先生

参加者：65名

専門講座2：「知的障害・発達障害の就労支援」

講師：独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

志賀 利一 先生

参加者 : 35名

研修会概要：

専門講座1では、藤田保健衛生大学リハビリテーション学科の稲本陽子先生に、「運動学習から考える嚥下訓練」というテーマでご講演いただき、65名の参加がありました。また専門講座2では、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の志賀利一先生に、「知的障害・発達障害の就労支援」というテーマでご講演いただき、35名の参加がありました。どちらも、この10数年で大きく変化・発展してきた分野であり、従来からの問題点や、最新の知見を含めた内容のお話でした。日本言語聴覚士協会のホームページに講義概要が記載されていますので、ご覧ください。

3. 学術局より

＜研修会を終えて＞

今回初めての試みとして、日本言語聴覚士協会主催の全国研修会を当会共催にて開催しました。千葉県内の病院・施設や当会会員の皆様の多くの参加があり、開催意義はあったと感じています。講師の先生方への感謝の意を表しますとともに、本研修が皆様の臨床の一助になりますようお願いしています。

＜研修会の症例発表者募集＞

当会では、症例発表者を募集しています。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。詳しくは当会ホームページよりお問い合わせ下さい。

＜「地域勉強会」での症例検討会に参加しませんか？＞

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「地域勉強会情報」をご参照の上、ご参加ください。

◇ 平成27年度介護保険委員会主催研修会報告 ◇

去る平成27年7月19日（日）、介護保険委員会主催の研修会を鎌ヶ谷市保健センターにて開催致しました。講師に、日本言語聴覚士協会 職能部 保険部会理事 黒羽真美先生をお招きし、ご講演をいただき、その後情報交換会を行いました。研修会には33名の方々が参加されました。ここに研修会の概要をご報告いたします。

演題：「介護保険制度と介護報酬改定について」 ～改定を知って臨床に活かす～

講師：学校法人国際医療福祉大学 介護老人保健施設マロニエ苑 黒羽 真美先生

内容：介護保険制度と平成27年度介護報酬改定の概要、リハビリテーション関連事項の変更点とその背景を知り、臨床に生かすための視点や方法論をご講演いただきました。

まず、介護保険制度の成り立ちや法制度についての概要と、今回の改正点とその根拠等をお示しく下さいました。高齢化の進展に伴う介護需要の増加は、東京をはじめとする首都圏で特に著しく、必要となる介護人材の不足と財源の問題は、安定的な社会保険制度の運営の危機要因であるとのことでした。また、住み慣れた地域で尊厳を持って自分らしく暮らすための「地域包括ケアシステム」の構築のための取組みについてなど、国の目指す将来像を含めて教えてい



いただきました。

その上で、今回の介護報酬改正の意味や背景を統計資料を基に、ご説明くださいました。

統計上、介護老人保健施設における平均在所月数は、在宅強化型老健では188日に対し、通常型老健は517日であり、施設の入所者の要介護度はどちらも変わらないとのこと。要介護度が高い方が、家庭に帰りにくいという一般論について、再考する必要を感じました。

また、通所リハビリテーション（デイケア）と通所介護（デイサービス）の比較資料も豊富に示されました。特に「プログラムの実施内容」について、いずれも心身の機能訓練に偏り「活動と参加」などの生活機能全般を向上させる、バランスのとれたリハビリの実施が求められていること、関与するリハビリ専門職のリハビリマネジメントについてもご教示くださいました。



食事の経口維持に関する取り組みについても、情報交換会時の会場からの質問にもご回答くださり、具体的な評価、計画、支援方法など明日からの臨床に生かせるご助言をいただくことができました。

最後に、医療・介護は連携し自治体と共に活動に参画していくことが、地域ケアシステムの実現に必要であることをお話しくださいました。介護保険制度の中で求められる責務を果たせるSTの有り方について、深く考える機会となる貴重な講演会となりました。

（介護保険委員 言語デイスサービス ミカタ 松本 真紀）

◇ 第9回リハビリテーション公開講座報告 ◇

平成27年11月1日（日）、木更津市市民総合福祉会館において、千葉県言語聴覚士会、千葉県理学療法士会、千葉県作業療法士会、千葉県リハ医学懇話会の共催による「第9回リハビリテーション公開講座」が開催されました。当日は、晴天に恵まれ、はじめての内房地域開催にもかかわらず、71名の市民の方が来場下さいました。

今年度は、『来て、見て、やって！いきいき健康講座』というメインテーマに、第1部では、千葉リハビリテーションセンターの吉永勝訓先生により『こうやって健康寿命を延ばそう！』と題した講演が行



《検査コーナー》

われました。続いて第2部では、言語聴覚士（以下ST）・理学療法士・作業療法士が、それぞれの会場に分かれ各職種の専門性をいかした検査コーナーを設け、体験してもらいました。当会では、『肺炎を予防しよう～あなたの嚥下力は？』というテーマで、①ディアドコキネシス、②発声持続時間検査、③反復唾液嚥下テストを行いました。当日は、地元のSTを含む16名のSTがボランティアとして参加しました。STの会場は、机の左右をパーテーションで区切った簡易検査ブースを9つ、相談窓口、県士会紹介コーナーを設けました。STの会場を訪れた56名の市民の方からは、『か』が難しいねー」「お喋りだから息が長く続くのね～」と検査を楽しんでいる声や、「飲み込みは大丈夫なのね、良かったー」と日頃の不安が

解消されたという声が聞かれました。中でも嬉しかったのは、「飲み込みの検査をしたかった」「誤嚥が心配だったから検査に来た」「肺炎は怖いからね」「こういう検査をしてくれるところが無いからね」と嚥下チェックを求めて来場される方が多かったことです。こんなにも嚥下障害が一般的に知られるようになったのは、高齢化社会となり、誤嚥性肺炎になる方が増えて来ているからなのかもしれません。

今後、ますます介護予防に対する期待は高まってくることが予想されます。当会としまして、今回のような取り組みを通してS Tが介護予防の分野で何が出来のかを模索していくことが出来ればと思います。

今回は、当会が幹事団体として市原市で第10回リハビリテーション公開講座を行う予定です。お近くの方は是非ご協力をお願いいたします。

(君津中央病院 古川 大輔)



《相談窓口》

◇ 県士会リーフレットを増刷しました！ ◇

今年度、県士会のリーフレットを増刷しました。つきましては、リーフレットを配布いただける施設様、研修会・イベント等を募集いたします。見本としまして、今回のニュースに1部同封しておりますのでご確認ください。

県士会の広報活動にどうぞご協力ください！

☒ 連絡先

FAX : 043-243-2524

MAIL : chibakenshikai@zp.moo.jp

担当：広報部 宮崎 寛夫

☒ 受渡し方法

メール又は FAX に ①氏名 ②所属 ③会員番号 ④連絡先 ⑤郵送先 ⑥配布先（施設名又は研修会・イベント名） ⑦希望部数 を記載の上ご連絡ください。

理事会で承認が得られ次第、郵送いたします（手続きに1ヶ月ほどかかります。ご容赦ください）。

☒ 部数

100部まで（100部以上ご希望の場合はご相談ください）。



施 設 紹 介



我孫子聖仁会病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大沼 寿美江

当院は、昭和 43 年に我孫子中央病院として開設し、昭和 63 年に我孫子聖仁会病院と名称を変更し、平成 18 年に現在の場所に移転しています。JR 常磐線天王台駅からバスで 5 分ほどののどかな環境に立地しています。病床数は、一般病棟、療養病棟、緩和ケア病棟の計 168 床で、平成 26 年 9 月より、地域包括ケア病床を有し、地域の患者様の自宅復帰を目指しています。

現在、リハスタッフは、理学療法士 9 名、作業療法士 4 名、言語聴覚士 1 名です。リハビリは、入院、外来、訪問リハビリテーション、デイケアで提供していますが、言語聴覚療法は、入院の患者様（内科、口腔外科、緩和ケア）に対して行っています。対象疾患は、脳梗塞や神経変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症など）などの中枢神経疾患、舌癌、高次脳機能障害、構音障害、摂食・嚥下障害に対して訓練を行っています。

ST は NST にも参加し、栄養状態が良好でない患者様に対してチームで取り組んでおり、必要があれば PT・OT の協力も得て、栄養改善に努めています。また、リハビリテーション科ではグループに分かれ、ミニカンファレンスを行っており、PT・OT と連携し、リハビリを進めています。

当院は、急性期～維持期まで行っておりますので、一人の患者様に長期間関わり、回復過程を最後まで見ることができます。患者様に寄り添ったリハビリを提供できるよう心がけております。また、現在 ST 若干名募集中です。ご興味がございましたらご連絡のほど宜しくお願い致します。

〒270-1177 千葉県我孫子市柴崎 1300 TEL : 04-7181-1100

市川高次脳機能障害相談室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小嶋 知幸

平成 18 年 2 月に開設致しました。言語聴覚士によるまったくの個人経営であり、法人化もしていません。対象領域は成人の失語症・高次脳機能障害です。

平成 12 年の診療報酬改定において「回復期リハビリテーション病棟入院料」が新設された際、リハビリテーションの期限が明確に打ち出されたことを受け、長期にわたって助言・訓練・メンテナンスを必要としている失語症・高次脳機能障害の方、とりわけ就労期の方のニーズを想定して開設しました。医療・介護の枠からこぼれてしまう方を常に念頭においています。

利用者の方にとってメリットは、①発病からの時期に関わらずご利用頂ける点、②ご希望の頻度でご来室頂ける点、③終了期限がない点、などです。一方、デメリットは、①保険診療ではないため、費用が自費となってしまう点、②医師の処方箋を必要とする領域を対象とすることはできない点、などでしょうか。開室日は、原則として平日木曜日と、土曜日・日曜日です。

ご来室については、基本的に言語聴覚士の方からのご紹介を前提としています。医学管理を受けていらっしゃる医療機関・主治医との連携を密に進めています。また、紹介元の言語聴覚士の方の訓練も継続しながらのジョイントセラピーも行っています。

日本では、成人領域での ST の開業はほとんど前例がなく、当方も、きわめて細々と行っている相談・訓練室ですが、もしお役に立てそうなことがありましたら、どうぞお声掛け下さい。

(<http://www.k4.dion.ne.jp/~ihbd/>)

臨床こぼれ話

★★★ 予想外の回復 ★★★

国際医療福祉大学

落合 勇人

皆様はじめまして。国際医療福祉大学言語聴覚学科で助教をしております落合勇人と申します。

千葉県松戸市にありますが旭神経内科リハビリテーション病院で6年間勤務し、今年の春より着任致しました。大学の方では、発声発語、摂食嚥下領域を専門に実習や講義のお手伝い、学生生活の支援などをさせて頂いております。慣れない事務作業と、プレッシャーを日々楽しむように心がけ、生活しています。

まさか自分が母校の大学に教員として戻って来るとは堀北真希が山本耕史と結婚するくらい予想していませんでした。まだまだ若輩者で人生を語れるような年齢では御座いませんが、本人の予想しない方向に人生は進んでいくようです。

日々の臨床でも予想もしないことは沢山起こります。患者さんの急変や、前日まで意識のなかった方が翌日、流暢にお話されて歩き出すことだってあります。そんな予想もしないことを目の当たりにする度、患者さんから人間の凄みを教えてもらったような気持ちになります。

ある時、105歳の女性を担当させて頂く機会がありました。骨折で入院され、るいそう（脂肪組織が病的に減少した症候）は著しく、ADLは全介助、食事はほとんど取れず発語もなく、日中は主にベッド上で過ごされていました。さて、何が出来るのか。当時入職して数年しか経っておらず、どうしたものかと悩んでいました。とにかくご本人の生活に即した形で出来るところから始めようと思い、ベッドから起きて車椅子に乗り、口腔ケアをして院内を散歩したり、整容動作を促したりと教科書的な言語聴覚療法とは遠いことばかりをしていました。

そんなある日、食事介助をしていた時です。なんとか栄養をとってもらおうと、食事回数を5回に分け、少量で高エネルギーの食品を提供するなど工夫をこらしていました。それでもなかなか摂取量が増えずどうしたものかと思っていた時です。ふと、そばに置いてあった空の湯呑みに気が付きました。ものは試しと、その湯呑みの中にお粥を入れて、左手で持って頂き、右手には小さなスプーンを持って頂きました。そして手添えで捕食動作を介助しました。すると、自らスプーンでお粥をすくって口へ運び、その次には別のおかずが手伸びていました。自分で食べられるとは思ってもいなかったのも、大変驚きました。人が食べる行為を見て、ある種の神々しさを感じたのを鮮明に覚えています。その後徐々に食べる量も増え、表情も変わり元気にご自宅へ退院されました。突然お気に入りの男性にキスをされようとするくらいお元気になられたのです（笑）。

あの時は「自分では食べられないだろう」というイメージで勝手に作った物語にあてはめようとして、患者さんの可能性を過小評価していたのだと思います。

思えば、105年の間に戦火をくぐり抜け、一生懸命に仕事や家事をこなし3人の子供を育てあげてきたのです。食事を介助されることなんてなかったでしょうし、プライドもあったのでしょう。

研究でエビデンスを蓄積し、先人の先生方が残して下さった多くの文献に当たりそれらの知見から言語聴覚療法を行うミクロな視点を常に持つことは、専門家としてとても大切なことです。

しかし一方で、歩いて食べて喋って排泄して寝て、人を愛して、大切な人や社会のために働くという、

人間の営為をいかに取り戻して頂くかという事に、常に刮目していなければならないと思います。私がお会いした方も、そんな揺るぎのない人間の営みを 105 年されて生きてこられた方です。その足跡を想像することは時に、臨床のヒントとなり、何よりのエビデンスになりうると思うのです。わずかな臨床経験ですがこれまで出会った患者さんが、人生を持って教えて下さった私なりの財産です。

リハビリテーションは日本語訳で「全人間的復権」です。我々はその一翼を担う職種のようなのです。その言葉の重さにたじろいでしまいます。でも、この仕事に携わる限りその言葉の意味を真摯に受け止め、どんなに忙しく、上手くいかないことが多くても忘れてはいけないと感じる今日この頃です。

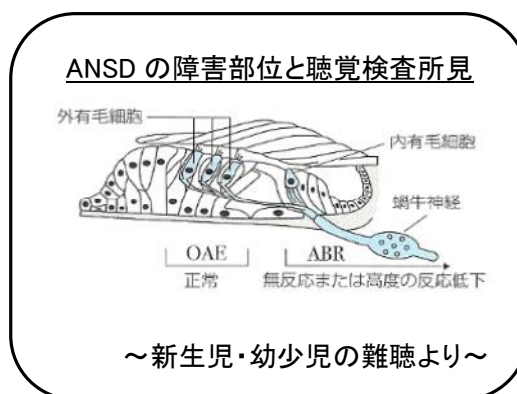
三三 きこえに関するひとくちコラム 三三

遺伝性難聴について その②

前回に引き続き、難聴の原因遺伝子で日本人にみられることが多い遺伝子変異の特徴をお伝えします。

【OTOF 遺伝子変異】ほとんどが先天性の高度～重度難聴で進行しないことが多いです。Auditory neuropathy Spectrum Disorder(ANSD) でもありますが、障害部位が内有毛細胞に局限しているため人工内耳の効果は良好であることが報告されています。そのため人工内耳の適応を決定する際に非常に重要な情報となる難聴です。

【Usher 症候群】MYO7A 遺伝子、CDH23 遺伝子、PCDH15 遺伝子など現在までに 10 種類程度の原因遺伝子が報告されています。臨床症状に応じてタイプ 1～3 に分類されており、難聴・前庭機能障害・視覚症状の出現の有無や時期が異なります。この疾患は網膜色素変性(夜盲や視野狭窄)の随伴症状があり、聴覚・視覚の重複障害を呈します。網膜色素変性症に対する有効な治療法は現在確立していないため、聴覚活用が特に重要となります。



以前のコラムでは、難聴に関する保険診療での遺伝子検査の対象は 13 遺伝子 46 変異とお伝えしていましたが、H27 年 8 月より 19 遺伝子 154 変異に拡大されました。より多くの遺伝子診断が保険診療で可能になってきており、今後も拡大していくと思われます。

～聴覚障害委員会～



◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎◎◎職能部◎◎◎

ワーク&ライフバランスコラム ～仕事と〇〇の両立～

この度、職能部では「ワーク&ライフバランスコラム」と題しまして、仕事と家庭（子育て）や趣味等の両立に関するコラムを掲載していくこととしました。

皆さんの「仕事と〇〇の両立」をお聞かせください！

「仕事を続けるための工夫～20 年を振り返って～」

印西市立子ども発達センター 渡邊 裕貴

S T になって 22 年、現在の職場ではちょうど 20 年が経ちました。子育てをしながら仕事を続け、子供も高校 3 年、中学 3 年の受験生です。子育てとしては、あと一息…といったところでしょうか。私も主人も実家は遠方で子育てに実家を頼ることができなかったので、仕事を続けるためにありとあらゆる子育てのサービスを活用しました。子供にもなるべく負担をかけたくないという思いから、3 歳までは個人のお宅で見てくれる保育ママさんをお願いしました。給料のほとんどは保育料に消えてしまいましたが、安心して預けることができてとても助かりました。また、転居先は市のサービスを調べて決めたり、当時はまだ始まったばかりのママヘルプサービスやファミリーサポートサービス、病児保育なども積極的に活用しました。

子育ての時期は仕事も頑張りたい時期と重なり、土日は主人の実家に子どもを預けて学会や研修会に参加したこともありました。その一方で毎朝後ろ髪をひかれながら子供を預け、夜はご飯を食べさせて寝かせるだけでバタバタと過ぎていく日々に、仕事を辞めようかと悩んだ時期もありました。同じく子育てをしながら働く周りの友人や先輩に支えられ、家族の協力のもと何とか続けてこれた感じです。子育てと仕事を両立する上で、特に女性は制約も多く、また子供にも我慢を強いることもありますが、仕事を通して社会とつながっていたことは大切だったと思います。

今、まさに小さいお子さんを育てながら仕事を両立している方、子育てのために一旦仕事をお休みされている方、子育ての時期はあっという間です。まずは子どもを最優先に、そして子育てが終わったら、その経験を仕事に活かして欲しいと思います。

皆さんも子育てに限らず、色んなことと両立をしながら仕事をしていると思います。これから皆さんの「仕事と〇〇の両立」について教えてください！！

◎◎◎災害リハビリテーション委員会◎◎◎

「災害リハビリテーションってなに??」

災害リハビリテーション委員会 平山 淳一

皆さんは、「災害リハビリテーション」(以下、災害リハ)という言葉聞き、どのような活動を想像するでしょうか?避難所での高齢者や障害者への個別リハビリテーションの提供をイメージする方も少なく無いと思います。事実、行政でも災害リハというと、「避難所で歩行訓練や言語訓練をされても…」というイメージを抱いている事が多いようです。

1995年阪神淡路大震災や2004年新潟県中越地震、2011年東日本大震災など、大災害だけでもここ20年で数回発生しています。今年9月の茨城県常総市における鬼怒川の氾濫や昨年8月の広島市土砂災害など、豪雨による地域的な災害は毎年のように発生しております。

発災時、もっとも急がれるのは人命救助であることは言うまでもありません。老若男女を問わず、あらゆる人々が命の危険にさらされます。発災直後は特に救命救助が集中して行なわれ、その後救護活動や避難所生活を経て日常生活へ戻って行くことになります。災害規模等により、日常生活に戻るまでの期間(避難所等での生活)が長くなるのは言うまでもありません。被災者は、避難中様々なストレスを受け、「生活不活発病」と言われる状態に陥ります。これは、私たちもよく耳にする「廃用症候群」と良く似通っています。つまり、避難所生活で動き回ることが不自由になり、日常行っていた買い物や炊事、掃除、外出など行わなくなったり、心身の疲労がたまったりすることで、生活が不活発な状況に追い込まれ、筋力低下や意欲低下などを引き起こします。特に高齢者や持病のある方は起こしやすく、要介護状態となってしまいます。私たちSTが専門とする分野に絞ってみても、避難所での嚥下障害の方や失語症や聴覚障害者などコミュニケーション障害の方、自閉症など発達障害の方に対する対応など、様々な問題があり、対策が必要となってきます。

リハビリテーションとは、失われた機能を取り戻し、より良く生きていくための一連の活動です。これを災害に当てはめれば、災害により失われた日常生活を取り戻すための一連の活動と言えます。介護予防と同じように、災害に対しても事前の準備は欠かせません。

我々STという専門職が災害リハに対して、どのような準備や活動が出来るのか、これから皆様へ情報配信しながら一緒に考えて行きたいと思います。

◇ 事務局より ◇

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらっしゃいましたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 迷子が増えています ~ 変更届についてのお願い ~

最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよ

りダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付をしております。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力お願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ（敬称略）

会員数：正会員382名・準会員20名・賛助会員：7団体

（平成27年10月18日 理事会承認分まで）

・・・正会員・・・

貞松 杏果（船橋市立リハビリテーション病院）	大平 佳奈（東京湾岸リハビリテーション病院）
遠藤 朱音（化学療法研究所附属病院）	北原 崇真（化学療法研究所附属病院）
戸村 友香（船橋市立リハビリテーション病院）	櫻庭 佑香（新東京病院）
高橋 美樹（化学療法研究所附属病院）	川邊 圭太（船橋市立リハビリテーション病院）
松田 洋平（船橋市立リハビリテーション病院）	桑原 優希子（船橋市立リハビリテーション病院）
津田 遼子（千葉県千葉リハビリテーションセンター）	西川 優紀（東京湾岸リハビリテーション病院）

（届出順）

年会費納入のお願い

* 当会の年会費は前納制となっております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

正会員	3500円	準会員	3000円
賛助会員 1口5000円（個人1口以上、団体2口以上でお願いします）			

未納分について

* 本年度は未納ゼロをめざします。平成25年度・26年度・27年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、未納分を合計した金額にてお早めにお支払いください。
本会の規則により、2年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。
なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。（例：正会員の場合：3500円×2＝7000円）
納入済かどうかご不明な場合や、その他年会費に関するご質問がございましたら、県士会メールもしくは下記までご連絡下さい。



◇◇お支払い方法◇◇

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

(記号番号) 00120-6-39932

(加入者名) 一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

(銀行名) ゆうちょ銀行 (金融機関コード) 9900 (店番) 019

(店名) 〇一九 (ゼロイチキュー店)

(預金種目) 当座 (口座番号) 0039932

(受取人名) イッパンシャダンハウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落とし

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

《年会費に関するお問合せ先》

東邦大学医療センター佐倉病院 リハビリテーション部

治田 (はるた) 寛之 043-462-8811 (代)

◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

◆ 平成27年度 理事会

《第5回》

日時：2015年7月5日(日) 13時00分～16時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎(理事9名)、宮下(監事1名)、星野直(書記1名)

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・ニュース48号について ・委員会名簿について ・ST 職場体験の試みについて ・高次脳機能障害委員会夏季特別講座について ・平成27年度認知症専門職研修について ・介護保険委員会研修会案内のML承認について ・全国研修会について ・生涯学習プログラム作業部会会議議事録について ・千葉県医療功労賞者の推薦について ・千葉県回復期リハビリテーション連携の会第5回全県大会の後援名義使用について ・平成28年度地域医療介護総合確保基金に係る事業提携様式について

2. 報告事項：・第2回研修会(摂食嚥下)開催について ・郵便物回覧

《第6回》

日時：2015年8月9日(日) 13時00分～15時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、小野、金子、酒井、治田、宮崎(理事7名)、宇野(監事1名)、鈴木(書記1名)

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・千葉県基金事業について ・日本言語聴覚士協会第2回全国研修会について ・千葉県医療功労賞者推薦結果について ・後援依頼について ・施設見学依頼および依頼文書について ・リーフレットの増刷について ・JAS医療保険に関するアンケート調査結果の取り扱いについて ・平成27年度認知症専門職研修の進捗状況について ・平成27年度介護保険委員会主催研修会アンケートについて ・変更登記について

2. 報告事項：・郵便物回覧

《第7回》

日時：2015年9月6日（日）13時00分～16時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎（理事9名）、宇野（監事1名）、小松（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・福島県士会一般社団法人化祝賀イベントについて ・ニュース No49 構成案について ・小児言語委員会アンケート送付と研修会チラシについて ・第42回コミュニケーション障害学会共催以来および第3回在宅リハビリテーション推進協議会の後援依頼について ・JASからの調査協力依頼について ・リーフレット増刷報告 ・平成27年度第2回研修会について ・平成28年度第1回研修会について ・第6回生活期リハビリテーション合同研修会案内 HP 掲載依頼について ・地域ケア個別会議（模擬研修会）に関するモデル研修について

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・千葉メディカルセンターMSWからの問合せについて

《第8回》

日時：2015年10月18日（日）13時00分～16時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、阿部、岩本、小野、金子、酒井、治田、平山、宮崎（理事9名）、宮下（監事1名）、今泉（書記1名）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・ニュース No49 構成案について ・代議員選挙について ・市原市在宅医療・介護連携推進会議の委員推薦について ・リハ専門職団体協議会主催「地域ケア個別会議（模擬研修会）」について ・リハビリテーション公開講座について ・認知症専門職研修について ・第2回研修会案内状について ・千葉県医師会講演会について ・後援依頼について

2. 報告事項：・郵便物回覧 ・第42回日本コミュニケーション障害学会チラシ同封について ・

◆ 平成27年度 学術局会議

《第2回》日時：2015年6月28日（日）14時00分～16時00分 場所：プラザ菜の花サークル室A

出席者：小野、神作、酒井、志賀、嶋田、関口、露崎

欠席者：原田

・日本言語聴覚士協会平成27年度第2回全国研修会について ・平成27年度第2回研修会について ・平成28年度第1回研修会について

◆ 平成27年度 広報部会議

《第2回》日時：2015年8月30日（日）13時00分～15時00分 場所：流山中央病院スタッフルーム

出席者：宮崎、加藤、鈴木、柳澤、片山

欠席者：相楽

・部員の役割の確認 ・WordPress の評価 ・メルマガサーバーの検討 ・HP 移転の検討 ・HP 管理体制 ・Twitter の活用 ・掲示板の必要性の検討

◆ 平成27年度 職能部会議

《第1回》日時：2015年8月1日（土）10時00分～11時00分

場所：黒砂公民館

出席者：渡邊、鈴木、徳山、小杉、高田、宮崎、金子

欠席者：宮内

・今年度の活動計画 ・今後の予定について

◆ 平成27年度 摂食嚥下委員会

《第1回》日時：2015年7月12日（日）10時00分～11時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院リハビリテーション室

出席者：酒井、高橋、田中、林

欠席者：相樂、長良

- ・平成27年度第2回研修会について
- ・ホームページでの摂食嚥下関連の情報提供について

《第2回》日時：2015年10月18日（日）10時00分～11時00分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院リハビリテーション室

出席者：酒井、相樂、高橋、田中、長良、林

- ・平成27年度第2回研修会について
- ・ホームページでの摂食嚥下関連の情報提供について
- ・次年度活動計画について

◆ 平成27年度 高次脳機能障害委員会会議

《第1回》日時：2015年7月29日（金）19時00分～21時00分 場所：西船橋カフェカプリ

出席者：治田、鈴木、竜崎、松田

- ・研修会の開催について

《第2回》日時：2015年10月14日（水）19時00分～21時00分 場所：東邦大学医療センター佐倉病院

出席者：治田、鈴木、平山、松田

- ・研修会について
- ・会期、会場、内容、ちらしデザインについて

◆ 平成27年度 聴覚障害委員会

《第1回》日時：2015年6月14日（日）10時00分～11時00分 場所：千葉県こども病院 会議室

出席者：常田、黒谷、大壺、高橋

- ・今年度の役割分担について
- ・コラムのテーマについて
- ・研修会について

《第2回》日時：2015年7月26日（日）10時00分～12時00分 場所：菜の花プラザ

出席者：常田、黒谷、大壺、高橋

- ・研修会での講義内容についての検討
- ・研修会について

《第3回》日時：2015年9月27日（日）10時00分～12時00分 場所：菜の花プラザ

出席者：常田、黒谷、大壺、高橋

- ・研修会での講義内容についての検討
- ・コラムについて
- ・アンケートについて

◆ 平成27年度 第9回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第3回》日時：2015年6月13日（金）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作 千葉県理学療法士会3名 千葉県作業療法士会3名

- ・プログラム
- ・役割分担
- ・部屋割り
- ・必要物品
- ・予算
- ・来年度について

《第4回》日時：2015年7月17日（金）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、古川 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会2名

- ・基調講演
- ・会場
- ・後援
- ・ちらしデザイン
- ・情報保障
- ・配布資料
- ・広報
- ・来年度について

《第5回》日時：2015年9月3日（木）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作 千葉県理学療法士会3名 千葉県作業療法士会3名

- ・チラシ配布
- ・弁当手配
- ・会場、駐車場確認
- ・来年度について
- ・千葉県地域医療介護総合確保基金

◆ 平成27年度 小児言語障害委員会

《第2回》

日時：2015年8月9日（日）10時00分～12時00分

場所：千葉リハビリテーションセンター カンファレンスルーム

出席者：藤田、廣瀬、野宮、木村、金子

・研修会について ・アンケートの発送について ・今後の予定

◆ 平成27年度 介護保険委員会

《第2回》

日時：2015年7月11日（土）19時00分～20時00分

場所：サイゼリア アクロスモール新鎌ヶ谷店

出席者：木村、牛山、斉藤、末藤、松本、山崎、小野

《第3回》

日時：2015年7月19日（日）16時00分～17時00分

場所：鎌ヶ谷市役所 総合福祉保健センター

出席者：木村、牛山、斉藤、末藤、松本、山崎、小野



◆ 平成27年度 生涯学習プログラム作業部会

《第1回》

日時：2015年6月28日（日）10時00分～11時10分

会場：千葉市療育センター 第三会議室

出席者：斉藤（公）、西本、長尾、佐藤、福田、阿部

欠席者：鈴木、古川

・今年度の講座開催について、会場について、役割分担、申込方法について
・次年度の講座開催について

◆ 平成27年度 渉外部 生活期リハビリテーション合同研修会実行委員会

《第4回》

日時：2015年7月2日（木）19時00分～20時30分

場所：船橋市中央保健センター

出席者：小野、山崎

《第5回》

日時：2015年8月6日（木）19時00分～20時30分

場所：船橋市中央保健センター

出席者：山崎

《第6回》

日時：2015年9月10日（木）19時00分～20時30分

場所：船橋市市役所

出席者：小野、勝又、山崎



（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

言語訓練用絵カード

アクトカード
ActCard®

失語症者への言語訓練を目的とした絵カードです。高齢者が日常会話
でよく使用する語彙の訓練や幼児・学童の言語訓練にも使用可能です。
言語訓練装置ActVoice2を使用して、音声での訓練も可能です。



詳細はページ下部へ



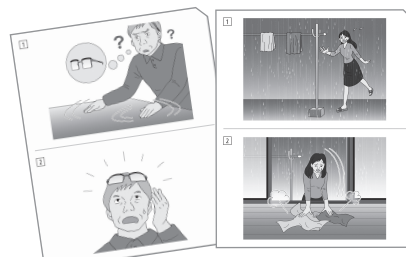
ActCard 連続動作2コマ

125×150mmサイズ 100枚 9,720円

連続絵カードで、より幅広い言語訓練を

簡単なストーリー形式になった2コマの連続絵カードです。

表面はカラーイラスト、裏面には文が記載されています。文は、成人向けの大まかな親密度順に並んでいます。文レベルの様々な訓練にご使用いただけます。



ActCard イラストシート集

A4判 60枚(イラスト30枚・文字30枚)/CD-ROM 8,640円

複写・印刷が可能！言語訓練教材や自習教材に最適！

ActCard第1巻300種類のイラストを各シート10種類ずつ印刷してあります。各シートにバーコードが印刷してありますので、ActVoice2とバーコードスキャナを使用するとイラストや文字に対応したヒントや答えを発声させることができます。ご購入いただいた機関で、入院や通院される失語症者に訓練を目的として使用する場合は、個人の方がご自身やご家族の言語訓練のために使用する場合は複写・印刷が可能です。

ActCardシリーズ 好評発売中 125×75mmサイズ 各300枚

第1巻 名詞絵カード / 第2巻 名詞絵カード / 第3巻 動詞絵カード / 第4巻 名詞絵カード 各19,440円
文字版 1巻 (アクトカード第1巻に対応) 15,120円

ActVoice 2

アクトボイス

19,440円

旧ActVoiceユーザー向け

無償贈呈キャンペーン実施中！



詳細はページ下部へ



言語聴覚士による、対面した失語症者への呼称訓練等の言語訓練場面や自習場面で使用できます。ベッドサイドや自宅での言語訓練が可能になります。購入前に一度試してみたいお客様へデモ機貸出サービスも実施中です！

- 特長**
- 本機の使用で、失語症者の言語訓練が一人でも簡単にできます。
 - 本機からの発声速度を、「標準」と「ゆっくり」に切り替えられます。
 - ActCard(別売)の名称が言えないとき、本機に載せるだけでヒントや答えが発声するため、自習用教材としても最適です。
 - 本体付属CD-ROMにブランクカード作成用のpdfファイルが入っています。パソコンとプリンタを使い、裏面バーコードを印刷できるデータです。ハガキサイズ縦と横、各1000枚合計2000枚のオリジナルカードが作成できます。

NEW

言語聴覚療法習得のための 必須基礎知識

山田 弘幸 阿部 晶子 飯干 紀代子
太田 栄次 北風 祐子 斉藤 吉人
橋本 真哉 池野 雅裕 吉村 貴子

エスコアール

今さらこんなこと質問できない、質問は苦手というあなたへ

言語聴覚療法習得のための 必須基礎知識

編・著：山田弘幸
著：阿部晶子 飯干紀代子
池野雅裕 太田栄次 北風祐子
斉藤吉人 橋本真哉 吉村貴子
B5判 360頁 4,860円

本当は理解できていないのに、こんな簡単そうなことを質問するのは恥ずかしいという気持ちから、本来ならすべき質問を見送ってしまった経験はありませんか？

本書は、基礎知識に自信がない養成課程の学生や言語聴覚士の方々に、言語聴覚療法に関わる重要基礎事項について、単なる丸暗記ではなく、内容を理解した上で身に付けていただくための学習ツールです。

特長

- 理解できないままに放置していた問題点をきちんと解決することができます。
- 索引や本文中に明記されている参照頁の活用によって、必要な情報を素早く見つけられます。
- 簡潔で平易な記述を心掛け、図表を豊富に用いてわかりやすく解説しています。

構音(発音)指導のためのイラスト集

企画・監修：加藤正子 竹下圭子
B5判5冊セット 全232頁 7,776円

構音(発音)指導にすぐに役立ちます！「キャリアオーバーのための構音(発音)絵カード」がイラスト集になりました。短時間でより多くの単語を練習することができ、子どもが思わず呼称したくなるようなイラストを見ながら、構音指導を楽しく進めて頂けます。



株式会社 エスコアール

<http://escor.co.jp>
〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3

TEL: 0438-30-3090
FAX: 0438-30-3091



●上記の商品はホームページから送料無料でお願いいただけます。 ●価格は消費税込です。



水に混ぜるだけ! ゼリーが手軽に作れます。

水分補給に Quick Jelly

クイックゼリー

包装単位: 10g×36



アップル
味



ピーチ
味

「ひとくちめ」から
幅広く
サポートします。

はやい

水100mLに溶かして30秒間混ぜるだけ。
3～5分後にはさわやかなゼリーができて上がります。
水さえあれば、いつでもすぐに、食感のよいゼリーが召し上がれます。

かんたん

加熱や冷却が不要。
外出先でもベッドサイドでも手軽に作れます。
加熱調理や冷却のための時間がかからず、作り置きスペースも省けます。



食べやすい

均質で飲み込みやすいテクスチャー。
離水がなく、温度による変化もほとんどありません。

テクスチャー: 硬さ・付着性・凝集性など
口腔内で知覚される
食品の物理的性質

カプサイシン入りフィルム状食品

マンゴー味

カプサイシンプラス[®]

カプサイシンの力で食事を楽しく!

U字の切れ込みが
入っています。

特 長

- カプサイシンは、トウガラシ(唐辛子)の成分です。
- 2枚で1.5 μ g(0.75 μ g/枚)のカプサイシンが摂取できます。
- 舌の上ですばやく溶けます。

使用方法

目安として2枚程度を口の中(舌の上)に入れ、
全部溶けたらお食事をお楽しみください。



包装: 24枚×10



販 売 者

株式会社 三和化学研究所

本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631

TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861

●ホームページ <http://www.skk-net.com/>



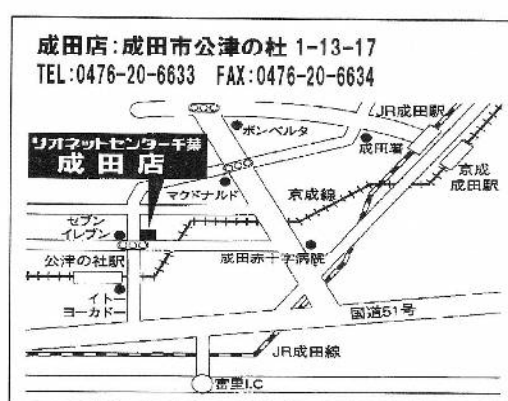
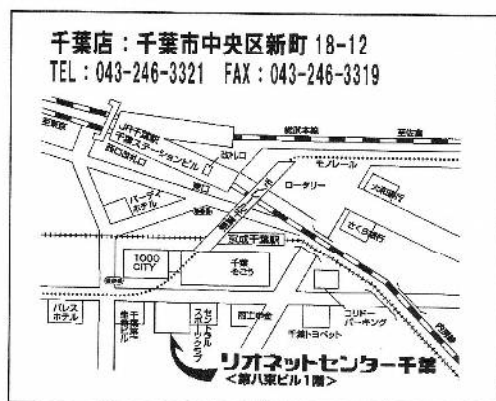
補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



リオネットセンター 千葉



発行所:一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人:吉田 浩滋

編集人:編集部 平山 淳一

事務局:〒263-0042 千葉市稲毛区黒砂2-6-15 メゾン K102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ:<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード:affordance

印刷:社会就労センター はばたき職業センター